

ICTが教員のパートナーとして機能するための教員養成系大学・学部の役割

鷹岡 亮

コロナ禍の影響も含めて小中高校、そして高等教育における教育の情報化が進められています。いや、Society5.0時代といわれる世界のなかで、様々な分野でDXが推進され、釈迦に説法ですが、教育においてもデジタル化(教育DX)がさらに急速に進んでいます。今回のコラムでは、教員養成系大学・学部の教育DXに関連することについて少し書かせて頂こうと思います。

1. 児童生徒・教員の『学びや学習支援のパートナー』としてのICT

OpenAIのChatGPTなどの生成AIの登場により、様々な業種において業務の効率化に活用されようとしています。特に、文書やプログラム、画像などの作成といった知的活動においてもその効果が期待されています。もちろん、ハルシネーション(生成AIが現実とは異なる、正しくない情報や回答をもっともらしく出力する現象)などのリスクが存在し、そのリスクに対する対策や対応が必要なことは言うまでもありません。そのChatGPTの登場から1年あまり、画像、音声、テキストなどの異なる情報を組み合わせたり、関連付けたりする処理が可能なマルチモーダルAIに対応した Google の Gemini が発表されました。ChatGPTの登場も驚きではありましたが、Geminiの登場は「衝撃的」で、ICTが学びや学習支援のための『手段』ではなく、学びや学習支援の『パートナー』と呼べる段階に進める可能性を有しているのではないかと感じました。

「学びのパートナー」という言葉は、当時岐阜大学に勤務されていた加藤直樹先生から学ばせて頂きました。加藤先生は、ICT(情報テクノロジー)は教師や児童生徒学生にとって夢や目的にむかってエンパワーメントしてくれる変革のツールであり、学びの景色を変えるだけの力を有した『学びや学習支援のパートナー』になりえる存在と捉え、学びの深まりとテクノロジーの活用の軸からなる「豊かな学びのデザインマップ」を開発し、授業者による授業デザインの活用、学習者の探究的な学びの学習活動デザインや学びの段階とICT活用のポートフォリオとしての活用を提案されていました[1,2]。

これから「令和の日本型学校教育」を構築していく上で、学びにおいて、個別最適な学びや協働的な学び、複線化される授業や学習を推進していく上で、生成AIを含むICTが、遠くない将来に向けて、学習者の学びの仲間、家庭教師的な存在、専門的なことを分かりやすく教えてくれる専門家、教師のTTのバディ、各学習者に対応する学習支援者などの役割を担える存在に少しずつ進んで行くのだと考えられます。このようなこれからの教育を担う教師の養成では、ICTを『学びや学習支援のパートナー』として捉えるマインドセット、具体的な授業・学習デザイン、それらを使いこなすスキル習得が必要になり、教員養成教育のなかで重要な位置に移行していくのではないかと考えています。教員養成系大学・学部において、「この課題にどのように対応するのか?」、山口大学教育学部でも早急に検討しなくてはならない課題であると捉えています。

2. 教員養成系大学・学部における教育DXに関連したカリキュラム・プログラム開発

既に、多くの教員養成系大学・学部において、教育DXに関連したカリキュラム・プログラム等の開発や教育実践が行われています。例えば、愛知教育大学では、教員養成版ICT活用指導力チェックリストの

開発や学生ICT支援員の育成、信州大学では、GIGAスクールに対応した実践的ICT活用指導力の体系的な育成を目指すカリキュラムの開発や学習支援コンテンツの整備など、本学においてカリキュラムやプログラム開発を行っていく上で、他大学・学部の取り組みは刺激的であり、多くの学びを頂いています。また、附属学校園においても、三重大学教育学部附属小学校における360°VR撮影システムによる研究授業、和歌山大学教育学部附属中学校におけるAR・VRを活用した授業実践などICTを活用した先進的な取り組みが展開されています。本学では、このような先進的な取り組みを学ばせて頂きながら、本学の附属学校で行われているICT活用授業や学習を教員養成教育でどのように取り入れていくか？、組み込んでいくか？を検討していこうと考えています。

NextGIGAのもとでICT(テクノロジー)を児童生徒・教員の『学びや学習支援のパートナー』として位置付けるために、教員養成教育においては、ICT活用指導力を育成するためのカリキュラムやプログラム、ICT活用を安全・安心に推進するための情報モラルや情報セキュリティの教育を展開することは必須として、ICT活用のポートフォリオ、AI教育(リスクやその対策・対応を含む)、AI技術や教育データの活用、これらのICT活用を進めるデジタル・シティズンシップ教育、さらにこれらのICTをパートナーとして活用する授業デザインや豊かな学びのデザインの在り方や方法についてのカリキュラムやプログラムを本学でも開発し、実施していきたいと思っています。これらの開発・実施において、会員の皆さまの大学・学部によく学ばせて頂きたいと考えていますので、引き続き、ご指導・ご示唆のほどよろしくお願いいたします。

【引用・参考文献・URL】

[1] 加藤ほか:「豊かな学びマップ」を活用した学習活動デザイン, 日本教育情報学会第35回年会, pp.8-11, 2019.

[2] 学校情報セキュリティお役立ち Web: 学校 ICT 専門家・研究者のコラム: 2019.09.13 わたしの学びのパートナー:文房具的な情報端末(加藤直樹), <https://school-security.jp/column/2019/09/わたしの学びのパートナー:文房具的な情報端末/>, 2023.12.22 access.

(山口大学教育学部長)